

聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝

司祭 フランチェスコ 成岡宏晃

「感謝を分かち合いたい」という呉光現総主事の想いが共有され、聖公会生野センター30周年記念事業実行委員会の会合において聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝を2022年10月10日に開催することが決定したのは、今から半年以上前のことでした。

その後、大阪教区宣教局で今年こそは対面での大阪教区礼拝をおささげすることができたらという願いが、5月頃に提言されました。

この2つの礼拝を「合同」でおささげするという方針について、当初は疑問と葛藤が飛び交っていましたが、主のみ心を祈り求めながら、度重なる議論を交わして大阪教区成立100周年に向けての新たな宣教の一步と聖公会生野センターの働きに感謝し、次



につなげることは深い関係があることを再認識することになりました。そして「福音宣教とは何たるかを改めて共に分かち合う礼拝をささげたい」という祈りによって、2022年10月10日13時30分、プール学院メアリーズホールにて表題の礼拝をおささげすることができました。

説教者に大韓聖公会より李京浩議長主教をお迎えし、さらに来賓として大韓聖公会の教役者3名、青年約20名をお迎えするという奇跡のような出来事が起こったのです。

さらには、日本国内で働きを担われている韓国出身教役者の皆さま、各教区代表の皆さまをはじめ日本全国から多くの方が主の呼びかけに応え、大阪の地に集められ、350名の方と聖公会生野センター30年の感

聖公会生野センター創立30周年記念号

聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝	・・・ (1)
大韓聖公会青年訪問団より	・・・ (3)
李京浩主教説教	・・・ (4)
記念礼拝の記録	・・・ (6)
ミッション・ステイトメント	・・・ (8)
のりばんレシピ	・・・ (10)
30周年記念募金中間報告	・・・ (11)
クリスマス献金のお願い	・・・ (12)

聖公会生野センター30周年の祈り

信頼と和解の源である神よ、人間の愚かと誤りによって未だに戦争、弾圧、差別、分裂の絶えないこの世界を顧みてください。あなたはみ子イエス・キリストによって、貧しく小さくさせられた人とともに生きることこそがあなたのみ心であると示されました。どうか、あなたのみ名によって建てられ創立30年の節目の時を迎える聖公会生野センターと連なるすべての人を祝福し、さまざまな違いを持つ人たちと共に生きるために、憐みの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けさせてください。また、わたしたちが在日韓国朝鮮人の歴史を正しく振り返り、共に生きる社会の礎となりますように祈ります。そしてあなたの愛に根差して和解の新たな歴史を創り上げていくことができますように、わたしたちの心の頑なさを取り除いてください。憐みの主、み子イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

謝を分かち合うひと時が与えられ、礼拝後のパネルディスカッションも100名を超える参加者が興味深くこれまでの生野センターの働きに聞き入っていました。

日韓聖公会の歴史に深く携わってこられた、さまざまな「違い」を持つ多くの方々が全国から、韓国から、またカナダから集められ、年齢も3歳から90代までと幅広く、「そこにキリストは共にいる」という礼拝のテーマを主が豊かに用いてくださったことの何よりの「しるし」でした。文字通り、多くの方の祈りに支えられている大切な宣教の器である聖公会生野センターが与えられている感謝と喜びを実感する礼拝となりました。

李京浩主教は説教の中で「実は、韓国と日本は、一番近い国、隣国でありながら、一番難しく複雑な関係でした。両国の国民は、かつての辛い歴史によって、互いに憎しみあいながら過ごしてきました。そのような苦しい時代の中で、大韓聖公会と日本聖公会はキリストの愛による赦しと和解とを成し遂げて、多様な交流と宣教を目指して努力して参りました。

た。今まで日韓の両聖公会が取り組んできた和解と親交、宣教協働の働きは、多くの聖職と信徒の心に美しい福音の花を咲かせ、実を結んでいます。現在大韓聖公会の聖職の皆様が、日本聖公会の各教区の教会で司牧に当たっていることこそ、最も大きい実りであると思います。」と語られました。

隣国にありながら一番難しく複雑な関係であり、互いに憎しみあいながら過ごした苦しい時代を超えて宣教と交流を実現させたのは他でもない「キリストの愛による赦しと和解」であったというメッセージは、戦争、差別、偏見、自己中心主義などによって大小さまざまな争いの絶えない時代を生きるすべての人たちが謙遜な心で受け止めなければならないものであると信じています。

聖公会生野センターの新たな一步はミッション・ステイトメントに記されています。このミッション・ステイトメントに聴き、一人でも多くの方が聖公会生野センターとともに新たな一步を踏み出せることを願っています。

(なるおか・ひろあき プール学院中学校・高等学校
チャプレン 大阪城南キリスト教会牧師)

大韓聖公会青年訪問団より

聖生院教会 グレゴリー 牟峻爽（モ ジュンソク）

今回の生野センター訪問は多くのことを学び、新しい何かを得たと思います。鶴橋から始まったフィールドワークから聞いた両国の文化のことは教科書などでは接したことの無い話でしたのでとても興味深かったです。生野センターの歴史や済州4・3事件の歴史を聞きながら、社会的な弱者を守るため歩んできた道はどれほどの時間がかかったのか、どれほどの努力が必要だったのかを改めて考えてみました。短い時間だったけど青年交流の時に上手ではない日本語で話しかける自分に優しく返事してくださった日本の青年の方々のことを思いながら、今回の大阪教区訪問をきっかけとして日本聖公会の青年の方々も韓国に来ていただいてこれからも活発な交流になることを望んでいます。

聖生院教会 ソロモン 牟辰爽（モ ジンソク）

生野センター30周年記念礼拝と青年交流のための大阪教区訪問の連絡が届いて、最初は久々の海外旅行の気持ちで参加しました。でも日本での日程から在日朝鮮人のことと生野センターのことを聞きながら軽い感じで参加した自分を反省して、歴史についてもう少し詳しく知りたくなりました。姉妹教会になる川口基督教会へ韓国の青年たちが訪問するということで、信徒の方々から韓国語で自己紹介と挨拶の言葉をしてくださったことが特別に記憶に残りました。その配慮の思いが私たちにも伝わってとても感謝しました。在日朝鮮人の痛みと想いを忘れないようにしながら生野センターが持っている価値と意味を多くの人々に伝えるにはどのような方法があるか考えてみる機会になりました。また日韓青年の交流を介して絆を深めるための取り組みをしたいと思います。



聖生院教会 ヨハネ 金相勲（キム サンフン）

1859年から始まった日本聖公会と、聖ガブリエル教会や、聖贖主教会、川口基督教会、聖公会生野センターの歴史を通じて、多くの朝鮮人の方々が本国から立ち去って日本に定着するようになった色々な事件と生活を学ぶ機会になりました。特に多くの朝鮮人が大阪に定着する背景になった済州4・3事件のことを聞いて苦しい状況から日本に移住し暮らし始めた在日朝鮮人の現実にもどかしさを感じました。社会的な弱者を支援する聖公会の宣教活動と過去の胸が痛む歴史を語りながら、その痛みを癒し合う時間になったことに感謝します。聖愛教会で行われた交わりの時間では日本聖公会の皆様と食卓を囲んで用意してくださったものを食べながらとても楽しい時間を過ごしました。日本語がまだ上手ではなくて戸惑いでしたが、皆様の温かい歓待を感じました。

「そこにキリストは共にいる」

主教 ペテロ 李 京浩

聖公会生野センターの創立30周年記念礼拝に出席できましたことを嬉しく思い、感謝します。実は、今日までの日韓交流のため大事な役割を担われた方々が沢山おられます中で、このような歴史的な集まりにおいて、私が説教させて頂けることを大変光栄に思います。

この2年半もの間、コロナウイルス感染症拡大の影響により、私たちの社会はもちろん、教会もとても苦しい日々を過ごしてきました。私たちの信仰は、共に集い会い、愛と交わりを分かち合うことで深い一致を得る喜びにありますが、それが全く出来ず、非常に悲しく残念な限りでした。いわゆるコロナ時代を過ごしながら、日常の暮らしがどれだけ感謝すべきことで、私たちが結んできたつながりがどれほど大切であったかを改めて心に刻み込まれた日々でした。

先ず、日本聖公会のすべての教会と施設、各教区の主教様と聖職・信徒の皆様の上に、三位一体の神様の恵みと祝福が豊かにありますようにお祈り申し上げます。

さて、大韓聖公会と日本聖公会は、1984年から公式に交流関係を結んで、それ以降さまざまな形で交わりを積み重ね、互いに信頼関係を構築してきました。このような公式の交流が実現できたのは、初代韓国^{イチョナン}人主教であるパウロ李天渙^{イチョナン}主教と日本の主教様、そして多くの司祭たちがキリストの愛のもとで赦しと和解、そして一致を求めて確固たる基盤を築いてくれたおかげにほかなりません。

実は、韓国と日本は、一番近い国、隣国でありながら、一番難しく複雑な関係でした。両国の国民は、かつての辛い歴史によって、互いに憎しみあい

ながら過ごしてきました。そのような苦しい時代の中で、大韓聖公会と日本聖公会はキリストの愛による赦しと和解とを成し遂げて、多様な交流と宣教を目指して努力して参りました。今まで日韓の両聖公会が取り組んできた和解と親交、宣教協働の働きは、多くの聖職と信徒の心に美しい福音の花を咲かせ、実を結んでいます。現在大韓聖公会の聖職の皆様が、日本聖公会の各教区の教会で司牧に当たっていることこそ、最も大きい実りであると思います。

今まで日韓の両聖公会が追い求めてきた和解と交流、そして協同牧会と協同宣教の働きは、世界聖公会が目指して勧めている和解の信仰という面において、模範的な事例として注目を浴びています。誠に感謝すべきことです。

聖ガブリエル教会の復興と聖公会生野センターの設立は、日韓聖公会の交流の初穂、初めての実りであると言えます。30年前の聖ガブリエル教会と聖公会生野センターの設立には、過去の辛い歴史の中で波瀾万丈の生涯を送られた一人の信仰者、すなわちヨハネ張準相司祭の熱い涙と愛、そして信仰の歩みが宿っています。^{チャンジュンサン}張準相司祭は、数多くの在日韓国朝鮮人の苦難に満ちた暮らしを代表する人物の一人です。そういう意味では、聖公会生野センターを一般的な社会宣教の施設の一つとして位置づけるのは、物足りないと言わざるを得ません。

このように、聖公会生野センターは、日本と韓国の両聖公会が、過去の辛い歴史への深い反省を通して、互いの痛みと傷を癒して、回復するために設立されました。聖公会生野センターは、生野地域に住んでいる在日韓国・朝鮮人に仕え、そして支えながら、その役割と使命を担ってきました。ここは、弱い立場にある

人々、貧しい人々と共におられる神様に会える処です。さらに、大韓聖公会の日本聖公会の信徒を一つに結びつける愛の綱であり、より深い連帯と協力を進める実践的な宣教の現場です。この30年間、聖公会生野センターを通して示してくださった神様の摂理と救いのみ恵みに感謝し褒めたたえます。

今日私たちに与えられた神様のみ言葉は、試練と苦境の中でも挫折せず、失望せず、神様が成し遂げられる救いの歴史を謳っています。預言者イザヤは、枯れ果てた地や砂漠、荒野のように弱り果てていたイスラエルの民に向けて声をあげています。「弱った手に力を込め、よろめく膝を強くせよ。心おののく人々に言え。雄々しくあれ、恐れるな。～神は来て、あなたたちを救われる。」と宣言しています。

詩編40篇の詩人は、自分の人生で経験した試練や苦境を信仰で耐えてから次のように神様を賛美します。「わたしは切に主を呼び求め、神は、耳を傾けてわたしの叫びを聞き入れられた。滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ、足を岩の上に立たせ、歩みを確かなものとされた。神はわたしの口に新しい歌、わたしたちの神への賛美の歌を授けてくださった。」

この詩人の告白のように、私たちは生きている間、多くの試練や逆境に出会います。試練や逆境に遭う時、私たちは「神様、どうして私にこのような試練や苦しみをお与えになるのですか」というふうに問いかけて嘆きます。

私たちは、そのような試練や逆境の原因や理由を全て知ることは出来ません。しかし、試練や苦境の中で、涙ながら祈り、最後まで耐え忍んだ人々は、それを通して今まで出会えなかった神様に会い、やがてはより深く神様を信じて信頼するようになります。その苦難の谷を通り抜けた人は、苦難と苦しみを通して新たに神様の大きなみ旨を見出し、次のように歌うのです。「滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ、足を岩の上に立たせ、歩みを確かなものとされた。神はわたしの口に新しい歌、わたしたちの神への賛美の歌を

授けてくださった。」

今日、私たちは、この30年間聖公会生野センターを通して神様が成し遂げてくださった恵みとお導きに感謝しつつ、私たちの口で新しい歌を歌いながら神様を賛美します。この30年の間、厳しい状況のなかで聖公会生野センターに仕えてこられたすべての人々の努めと献身にも感謝します。

今日、聖公会生野センター創立30周年の感謝礼拝をささげながら、私たちに向けられた神様のみ旨やご計画は果たして如何なるものか、と自分に問いかけてみます。わたしはその答えを、今日の使徒書と福音書の中に見出すことができると思います。

使徒パウロは、明らかに、断固として「キリストはわたしたちの平和であります」と宣言しています。誠にその通りであります。私たちは十字架の愛、十字架の道理、十字架の知恵と救いの力を信じて生きています。私たちは、十字架を通して、神様が進めておられる神様の救いと平和、そして和解のため生きる信仰の群れです。信仰の人々がキリストにあってユダヤ人と異邦人との隔てを無くしたように、私たちは日本と韓国という壁を無くして主の平和のために共に働く群れです。聖公会生野センターは、主の平和に与った人々が、主の平和のために働く家です。

今日の福音書で主イエス様は弟子たちのため二つの祈りをささげられました。

そのうちの一つが「すべての人を真理のため自分をささげる者にならせてください」という祈りです。その通りです。私たちは、真理のため自分を献げる人として、父である神様のなかで一体となって、聖なる交わりを分かち合うように招かれました。聖公会生野センターは、私たちの周辺で見られる単なる数多くの社会施設の一つではありません。聖公会生野センターは、福音の真理を現すために神様が建てられた社会宣教の器、福音宣教のための施設です。生野センターを通して、聖なる交わりをもって私たちが一致すると

き、私たちのすべての活動と働きは、神様の栄光をこの世に現す聖なる働き、善の活動になります。

是非、これからも聖公会生野センターが主の平和を実現しつつ、福音の真理を現しながら聖なるコイノニアの信仰で私たちを一つに結び付けてくれる美しい信仰の共同体に成長していくことを心から願い祈ります。

今私たちは、このような信仰で一つとなるため、聖公会生野センター30周年記念感謝礼拝を神様に献げています。主の聖餐にあずかり、さらに深い一致を成し遂げ、共にこの道を歩んで参りましょう。

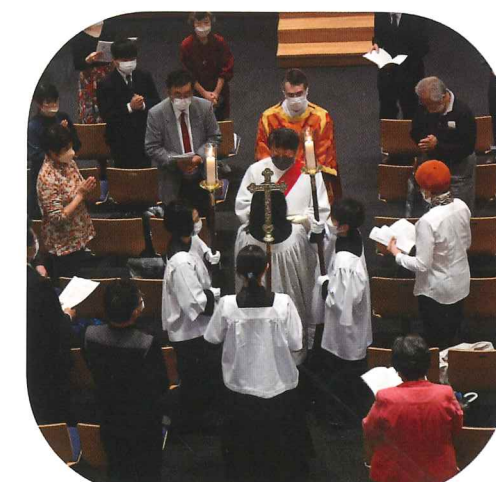
(い・ぎょんほ 大韓聖公会議長主教・ソウル教区主教)

【翻訳：司祭 ステパノ 柳時京 (ゆ・しぎょん)】



聖公会生野センター30周年 記念礼拝の記録

【撮影：國分腴旺 氏】



「聖公会生野センター ミッション・ステイトメント 2022」

- ① わたしたちは、小さくされた人々、弱くさせられている人々の声を聴きます。
- ② わたしたちは、イエス・キリストの愛に倣い、共に生きる新しい社会を目指します。
- ③ わたしたちは、差別、抑圧、戦争を無くすために働きます。
- ④ わたしたちは、多民族、多文化にある人々とつながって生きていきます。
- ⑤ わたしたちは、痛みを背負わされてきた人々と共に歩むイエス・キリストの十字架を共に背負います。

= ミッション・ステイトメントを発表するにあたり =

聖公会生野センターのルーツは張準相師が1925年に在日韓国・朝鮮人への宣教の働きをはじめたことにあります。これは後に聖ガブリエル教会の設立につながりました。

聖公会生野センターは日本聖公会になくてもならない宣教の器であり日本人と在日、日本と韓国の和解の役割を担っています。

1984年からの日韓聖公会正式交流から38年。日本では「日韓協働委員会」、韓国では「韓日共同委員会」が立てられ旧植民地宗主国の日本と旧植民地であった韓国の両聖公会は40年近い交流を積み重ねてきました。植民地下の朝鮮では「支配者日本人」と「被支配者朝鮮人」の関係でありました。その両者が真の愛をもって交わりを深めてきたことはアングリカン・コミュニオンの中でも大きな驚きと喜びとして評価されています。それは教会の代表だけでなく、青年、女性、社会宣教等の具体的な人的交流を通して、今や両聖公会は固い友情と信頼の上に立ったゆるぎない関係を持つに至っています。両聖公会は課題を共有しながら宣教のパートナーとして歩んでいます。

両聖公会の交わりを契機にして生まれた聖公会生野センターは『地域と共に歩むことを願い』を大切に、生野地域を中心として在日韓国・朝鮮人と日本人の協働、障がい者と健常者の共生を目指して働いてきました。また在日高齢者の集いである「のりばん」をはじめとした温もりのある交流を続けてまいりました。以下にこのミッションステイトメント（使命の表明）の思いを表わします。

- ① わたしたちは、小さくされた人々、弱くさせられている人々の声を聴きます

聖公会生野センターに関わる私たちは、在日韓国・朝鮮人の声に耳を傾けなかった歴史があることに痛みを覚えます。

1980年代に入り大阪教区で「在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会」が作られ生野地域を中心として在日韓国・朝鮮人問題への取り組みが始まりました。その働きは様々な形で、多くの地域で、在日の課題の取り組みが開始されました。関東3教区の「生野委員会」もその一つです。

それらの宣教の働き等から1992年に悔い改めのしるしとして日本聖公会によって聖公会生野センターが設立されました。そのことは日本聖公会にとって大きな変革をもたらしました。同センターは「声を聴く」という思いと姿勢が常に問われています。

- ② わたしたちはイエス・キリストの愛に倣い、共に生きる新しい社会を目指します

私たちは、イエス・キリストがパレスチナの地で最も抑圧されていた人々と共に歩んだことを知っています。そのイエスの愛に倣うことは、現代社会で「共に生き」「新しい社会」の創造をめざすことです。

- ③ わたしたちは、差別、抑圧、戦争を無くすために働きます

教会につながる人々の使命は、「『神様がよしとされる』この世での宣教の業」に参加し、すべての人が「差別」から解放され、戦争のない平和な世界のために働くことです。

歴史・社会的に少数者（日本では在日韓国・朝鮮人、旧植民地出身者、新たに来日して住んでいる外国人、被差別部落の人々、アイヌ民族、沖縄の人々、女性、子ども、障がい者、性的少数者、福島原発事故の被害者、難民の人々など）がまず差別・抑圧されてきました。これを克服し、なくすことは戦争のない平和な世界を造ることです。

- ④ わたしたちは多民族、多文化にある人々とつながって生きていきます

「単一民族神話」の考えがいまだに残る日本はすでに300万人に至る外国籍の人々が暮らし、外国にルーツのある日本国籍の人々も100万人を越える社会になりました。またアイヌ民族、沖縄の人々は日本の中であって独自の文化を保持しながら暮らしてきました。

多数者と少数者が共に生きていくとき少数者が『生き活きと自らの文化を大切に』にできるようつながりの中で共に歩むことが大切です。

- ⑤ わたしたちは、痛みを背負わされてきた人々と共に歩むイエス・キリストの十字架を共に背負います
イエス・キリストと歩むことはその十字架を共に担うことです。それは自らを捨て、痛みの中にある人々とイエス・キリストが歩まれたように、私たちにもその十字架を背負うことが求められています。

聖公会生野センターはイエス・キリストに倣って歩んでいくことを宣言します。

2022年10月10日

30周年記念 のりばんレシピ製作に携わって

30周年の実行委員会に携わることになり、韓国料理が好きな私は軽い気持ちで「レシピづくりのお手伝いをします」とお声掛けしました。本園の栄養士、中辻亜紀さんにも声をかけ、はじめは交互にのりばんにお邪魔して、マルスンさんが作られるお料理を横で見ながら分量など記録していきました。初めてお邪魔するのりばん、お料理もおいしく、ハルモニ達は楽しそうで、とても良い憩いの場だと感じました。初めて顔を合わせる私にも「これ食べ」「ここの料理は美味しいで～」などたくさんお声掛けしていただきました。その後、中辻亜紀さんが行ってくれることが多くなり、ほとんど任せきりになってしまいました。記録したメニューを作る試食会

には出向きましたが、マルスンさんの味の再現は難しく、みんなで試行錯誤しながらの試食会でした。

コロナの影響もあり発行が遅れるかという心配もありましたが、最後の校閲では作り方をどのような言葉で伝えればよいかなど、古澤恵依子さんと中辻亜紀さんは何度も修正をして作り上げていました。素人が撮った料理の写真もとても美味しそうに載せて下さったプロの高元秀さん、みなさんの努力もありとても良いレシピ本ができました。製作過程を近くで見守り、色々な人と関わり合うことができ、私にとって良い経験となりました。今回レシピ作りに携わってくださった皆様に感謝しております。ありがとうございました。

(はやかわ・いくこ こひつじ乳児保育園園長)



レシピ本をご希望の方は、聖公会生野センターにお問合せ下さい。

☎ 06-6754-4356 ✉ nskkikuno@gmail.com



聖公会生野センター30周年記念募金の報告と再度のお願い

多くの方々と祈りとご支援の下に、30周年記念事業が進められていますことを感謝申し上げます。

会計報告にありますように目標までにあと130万円になりました。募金の期限は2023年3月31日です。再度のお願いになりますがよろしく願いいたします。

聖公会生野センター30周年記念事業募金委員会

主教 磯晴久／主教 植松誠／主教 武藤謙一／主教 李京浩 (以上 共同代表)

司祭 矢萩新一(管区事務所総主事)／司祭 古本靖久(京都教区)／司祭 林和広(神戸教区)／鈴木憲二(大阪教区 聖公会生野センター大阪教区後援会)／寒河江研司(大阪教区連合男子会会長)／鈴木久美子(大阪教区婦人会会長)

募金目標額 600万円

募金送金口座(ゆうちょ銀行)

【郵便振替】

聖公会生野センター後援会(セイコウカイイクノセンターコウエンカイ)

お客さま番号: 0091-7541-30180

【ゆうちょ銀行口座からの送金先】

記号番号: 振替: 00960-0-133429

(当座: 〇九九店 133429)



携帯で振込される方は
こちらのQRコードを
ご利用ください。

30周年記念募金会計

2021年12月1日～2022年10月31日				支出		合計	備考
収入		合計	備考				
1	献金・大阪	1,607,926		1	事務通信費	229,693	
2	献金・他教区	2,113,273		2	セミナー費	80,000	
3	一般	504,500		3	レシピ作成費	285,000	
4	韓国	500,000		4	記念礼拝経費	69,500	
5	海外	0		5	旅費交通費	28,000	
6	レシピ売上	47,220		6	センター改装費	2,000,000	
合計		4,772,919	①	合計		2,692,193	②

差引額①－② 2,080,726

クリスマス献金・会費納入のお願い

主のみ名を賛美します。

当センターは住民の4人に一人が在日韓国・朝鮮人である大阪生野地域を中心として、日韓教会の交流、すべての人が大切される社会の実現をめざし在日高齢者や障がい者の居場所作り、文化事業などを行っています。

開設30周年を迎えて①新事業②記念感謝礼拝③記念募金④のりばんレシピ作成等様々な活動を行っています。が、通常の会計は非常に厳しい状況であります。

30周年の募金とクリスマス献金のお願いと皆様には多大なお願いをいたしますが、どうぞ聖公会生野センター

の活動を支えるために今一度よろしくお願いいたします。

生野地域にあって行政や地域諸団体と共に「人に優しい街づくり」に加わり、聖公会では大阪教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会、管区日韓協働委員会の働きを担っています。

地域の中でのネットワークを大切にしながら、聖公会生野センターの働きが多くの人に支えられていることを感謝してやみません。

今後とも皆様のお祈りとご支援をお願いいたします。

2022年 降臨節

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております

今年より、クレジットカードで会費納入・献金ができるようになりました（ホームページからお手続きください）



NPO法人聖公会生野センター理事会

主教 磯晴久（理事長・大阪教区）司祭 原田光雄（副理事長・大阪教区司祭）／司祭 岩城聰（大阪教区引退司祭）／加納佳世子（大阪聖アンデレ教会信徒）／張聖子（聖ガブリエル教会信徒）／早川育子（こひつじ乳児保育園園長）／司祭 奥晋一郎（和歌山聖救主教会）／鈴木憲二（大阪教区後援会副会長）／司祭 ウイルソン ウォーレン（芦屋聖マルコ教会牧師）／司祭 小林聡（教区在日韓国朝鮮人宣教協働委員会）／司祭 古澤秀利（聖ガブリエル教会管理牧師）／丹田則史（聖ガブリエル教会信徒）／司祭 柳時京（川口基督教会牧師）／司祭 卓志雄（管区宣教主事）／吳光現（聖公会生野センター総主事）／長野泰信（監事 石橋聖トマス教会）／熊取谷志郎（監事 岸和田復活教会）

▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）

※法人の事業の決定に参加できます

▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）

▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）

▼維持会員：A 30,000円／B 50,000円／C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・E-mailでご連絡ください。

・email：nskkikuno@gmail.com

・FAX：06-6224-7869

・郵送：〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

発行人：磯 晴久

編集人：吳 光現

TEL 06-6754-4356

FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>